文化学部の井上次夫教授、東原伸明教授の編著書が、第31回高知出版学術賞を受賞しました。

井上次夫、高木史人、東原伸明、山下太郎
『次世代に伝えたい新しい古典ー「令和」の言語文化の享受と継承に向けて』
（武蔵野書院）2020年

Ⅰ　古典文学（上代・中古・中世・近世・近代）・古典漢文
1　新しい古典としての『古事記』
2　書物として見る古典文学の新しい解釈の行方
3　「産む性」の拒否・『竹取物語』かぐや姫の思想
4　土左日記の「本領発揮」のために
5　〈歌〉の『伊勢物語』と〈語り〉の『大和物語』
6　『枕草子』「したり顔」の呪縛を乗り越えて
7　新しい古典としての日記文学
8　「光源氏」とは何か
9　『源氏物語』続編の「ましかば」
10　日本初の長編物語の作り方―
11　「虫めづる姫君」の教え
12　『とりかへばや物語』
13　『古事談』
14　『徒然草』をひらく
15　新しい古典としての西鶴
16　長塚節『土』を読み継ぐ
17　中国故事の享受・受容と現代日本人

Ⅱ　国語教育（小学校・中学校・高等学校）
1　古くて新しい古典教育の問題
2　昔話教材を使った古文入門教育／指導法へ
3　古典の新しい指導法
4　『伊勢物語』「筒井筒」の学習指導法

Ⅲ　日本文化（民衆・政治・社会）
1　田楽と御霊会からみた民衆文化
2　「三千五百万人の末弟」が残したもの
3　「昔話」から「昔語り」へ

本学部の井上次夫教授と東原伸明教授が編著となる『次世代に伝えたい新しい古典―「令和」の言語文化の享受と継承に向けて』（武蔵野書院）が令和2年度の第31回高知出版学術賞を受賞いたしました。本書の執筆には、井上、東原の両教授に加え、ヨース・ジョエル教授も加わっています。ぜひ、ご一読ください。

同賞は、平成2（1990）年に高知市文化振興事業団により優れた学術研究の振興を図り、県勢の発展に資することを目的として創設され、当該年度ごとに高知県在住者の学術的著述または高知県に関する学術的著述の中で最も優れた学術出版を顕彰するものです。

去る2021年3月20日に高知市立中央公民館で開催された表彰式には、編者を代表して井上が出席しました。審査委員長からは本書の数編の論考を取り上げながら適切かつ丁寧なご講評をいただくとともに、本書に対しては、「令和」の時代に継承すべき古典や作品、国語教育の方法などの論考により、古典世界への新たな切り口を示し、新たな読者を古典に誘う良書である、との評価をいただきました。

賞状

第三十一回高知出版学術賞

井上次夫様 高木史人様
東原伸明様 山下太郎様

あなたの著書『次世代に伝えたい新しい古典―「令和」の言語文化の享受と継承に向けて』は優れた研究書として学術文化の振興に大きく寄与されました よってここに賞状を贈りその栄誉を称えます

令和三年三月二十日

公益財団法人高知市文化振興事業団
理事長 脇口宏